

◇ 地区の概要 ◇

- 事業名 農山村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）
- 受益面積 A=328.8ha（地区面積525.0ha）東京ドーム 約111個分
- 工期 平成25年度～令和2年度（予定）
- 総事業費 13,061百万円（災害復旧費含む）



原町東地区

（農業法人3社、個人4人等の担い手へ集積を図っている）

＜目標・理念＞

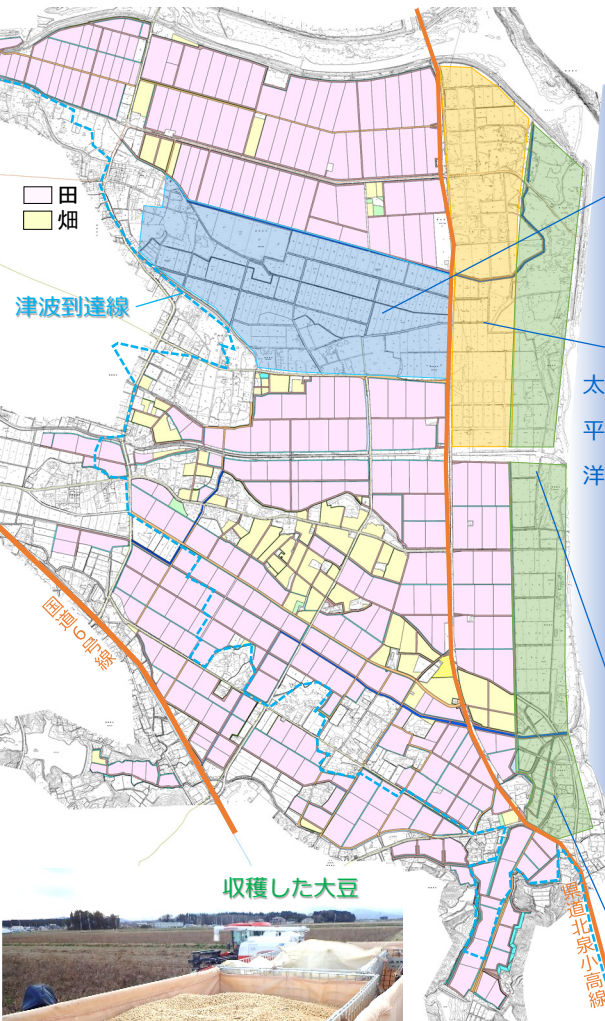
- ①「生業としての農業」「風評に負けない農業」へと復興するための生産基盤を創る。
- ②地域外と「共働」し、次世代へ継承できる地域農業の確立を目指す。
- ③先人たちから引き継がれた「報徳仕法」を見習い事業を推進する。

◇ほ場整備による生産性の向上◇

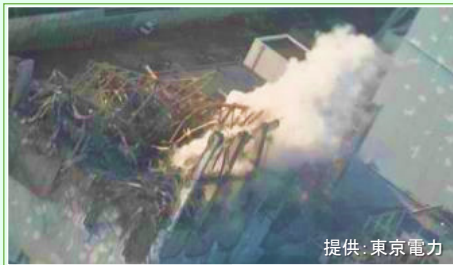
甚大な被害からの復旧
×
大規模化・集約化

◇換地による土地利用の再編◇

非農用地の創出（復興計画）
×
農用地の集約



（他に、県道、市道、河川等の非農用地を創出）



提供：東京電力



バスでの広域避難



津波が引いた地区の状況

H23.3.15 屋内退避
 4.22 緊急時避難準備区域
 9.30 " 解除
 捜索活動が難航する中、
 多くの市民が広域へ避難

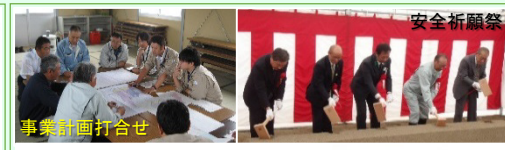


南相馬市復興計画
 ～ひとつに 世界に誇る 南相馬の復興を～



南相馬市復興市民会議

H23.12 福島県・南相馬市復興計画
 H24. 1 災害査定を完了
 土地利用の方向性を示す
 帰還へ向けたひとつの契機



事業計画打合せ



安全祈願祭



工事着手時の状況

H25.7 事業計画の確定
 H26.3 工事着手
 H27.4 一部で営農再開
 営農再開エリアを急ピッチで拡大

R元年 再開面積
 299.7ha(91.1%)

◇ ご縁 ⇒ 共働 ◇

〈農事組合法人 ふあーむ・しどけ〉



芝生栽培会議



芝生の収穫作業



全国植樹祭会場



ふあーむ・しどけの皆さん

- ① 他県の造園関係者より『芝生』の栽培提案
- ② 技術指導を受け、生産に着手
- ⇒ 全国植樹祭会場の芝生として初出荷
- ⇒ 栽培面積を拡大し、安定収入の確保を目指す。

〈菜の花栽培に取り組む担い手〉



菜の花迷路



現場代理人 上野さん 監督員



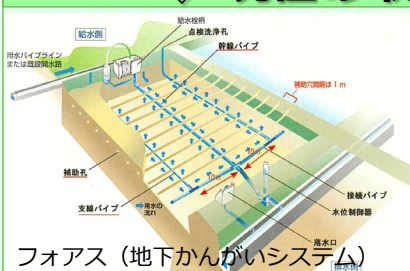
ボランティアと上野さん



油菜ちゃん

- ① 消防団 × 全国の支援による捜索活動
- ② 支援の皆さんと菜の花の栽培を開始
- ⇒ 菜の花迷路には、約1.1万人(H31)が来訪
- ⇒ 市内で連携し「油菜ちゃん」の開発(高校と共働)
- (ふるさと納税返礼品のひとつ)

◇ 現在の取組 ◇



フォアス(地下かんがいシステム)



フォアスの施工状況

- ・パイプラインとフォアスの早期供用開始を目指し工事中
- ・地域外からの企業参入(ブロッコリー) 予定

	平成30年度	平成30年度まで	令和元年度	令和2年度以降
工事内容	管路水工 暗渠排水工	整地工 管路水工 ほか	暗渠排水工 管路水工 ほか	暗渠排水工 補完工 ほか
事業費	2,236百万	9,750百万	480百万	2,831百万
営農再開 (累計割合)		285.8ha (86.9%)	300.3ha (91.3%)	328.8ha

※一時利用指定ベースで集計 (累計割合=再開面積累計/受益面積 × 100)

報徳の里 ～二宮尊徳の教え～

二宮尊徳の考えた農村を立て直す方法を報徳仕法(二宮仕法)といいます。
 当地方では、天明・天保の飢饉からの農村建て直し政策のひとつとして報徳仕法を実施しました。
 このときのキーマンが尊徳の一番弟子である富田高慶です。
 富田がまとめた報徳記では、仕法の根本を「至誠」とし、実施するにあたって「勤労」「分度」「推譲」が必須だとされ、先人たちは、この御仕法に取り組み苦難を乗り越えてきました。
 東日本大震災からの復興に向けて、私達も御仕法の教えを胸に刻み、取組を進めてまいります。
 至誠：まっすぐで思いやりのある心
 勤労：熱心に働くこと
 分度：自分にふさわしい(身の丈にあった)生活をする
 推譲：将来へ向けた貯蓄をし、また他者や社会のために一部を譲ること



我が道は、至誠と実行のみ

南相馬市博物館 報徳仕法

(詳しくは、南相馬市博物館のホームページをご覧ください。)